

## 日本農芸化学会 関東支部 2024年度若手発案企画 第六回 植物生長調節物質若手研究会

(報告者: 福井 康祐)

### 開催概要

日本農芸化学会関東支部、2024年度の若手発案企画として第6回植物成長調節物質若手研究会を東京理科大学野田キャンパス内にあるセミナーハウスにて開催しました(9月2日-3日)。関東近辺の参加者が多くを占めましたが、北海道や京都、福井など関東圏以外からも含め50名の参加者により一泊二日の合宿形式で行われました。本研究会には招待講演として3名の先生方(明治大学 西山康太郎先生、京都大学 小川哲史先生、シンジェンタジャパン 稲垣秀生先生)にご発表いただくとともに、ほぼ参加者全員が口頭発表を行い、活発な議論が交わされました。

### 1. 招待講演

招待講演として三名の先生方にご発表いただきました。明治大学の西山康太郎先生はケミカルバイオロジーによる植物研究に関してこれまでの研究から、現在進行中の研究まで有機化学を専門としない学生さんにもわかりやすくご講演いただきました。

京都大学の小川哲史先生は根寄生植物が宿主に接近するメカニズムについてご講演いただくともアメリカ留学やアメリカでの生活についてお話いただきました。

シンジェンタジャパンの稲垣秀生先生は大学院生時代の研究や、その後のキャリアパス、農薬業界での仕事についてご講演いただきました。参加者の大部分がポスドクや大学院生であったことから、農薬業界への就職活動や仕事についても多くの質問がされました。

### 2. 一般口頭発表

口頭発表では、各参加者の現在の研究内容を中心として40件の発表がされました。発表者が想定を超えたことから十分な質疑応答時間を取ることができませんでしたが、休憩時間や懇親会中にも活発に議論が行われました。



西山先生ご講演の様子



小川先生ご講演の様子

(裏面につづく)

# JSBBA KANTO

初日の夜は食堂にて、懇親会が開催されました。昼間の熱気をそのままに、教員、学生の枠を超えて熱い議論が交わされるだけでなく、意見交換を介して共同研究に発展していく場面も見られ、大変有意義な時間を過ごしました。

### 3. まとめ

本研究会は植物ホルモンを研究する若手研究者を中心として、相互の情報交換や共同研究の促進を目的として今回第6回目の研究会を開催しました。第2回以来の合宿形式での開催にも関わらず、多くの方々にご参加いただき、大変効果的な研究会であったと感じています。参加者の皆様には、この研究会で得られた意見や人とのつながりを活かして、今後の研究活動をさらにご発展させていただければ幸いです。



稲垣先生ご講演の様子

### 4. 謝辞

ご講演、ご発表くださいました先生方、本研究会の開催、運営にご協力くださいました先生方、学生の皆様に御礼申し上げます。また本企画を採択いただき、ご支援をいただきました農芸化学会関東支部に厚く御礼申し上げます。



参加者集合写真